

拠点

拠点2 子どもの生活研究所（保育）

1. 運営方針・目標

すこやか園（分園を含む）、宇奈根なごやか園、鎌田のびやか園（分園を含む）、すこやか広場、送迎保育ステーションは、法人の保育部門として共通の基盤のもと、次の事柄を目指す。

- ① すこやか園（分園を含む）、宇奈根なごやか園、鎌田のびやか園（分園を含む）、の保育部門間での情報共有を目的とし、保育部門の管理者による会議を定期的に行いながら、保育の質を高めていくことを目指す。
- ② すこやか園（分園を含む）、宇奈根なごやか園、鎌田のびやか園（分園を含む）、すこやか広場や送迎保育ステーションは、各々交流を図り、子ども達に様々な経験を提供できるように工夫する。
- ③ 保護者支援は、園と家庭との連携を密に行い「子どもを中心に据え、互いに手を取り合い育てていく」という姿勢を持ち取り組んでいく。
- ④ 地域に開かれた子育て家庭への支援や、近隣の老人施設や学校との関係を深める世代間交流の機会を持つ等、新制度においても地域の子育て支援を積極的に行っていく。
- ⑤ 子ども・子育て支援新制度に係る今後の保育体制の進行に注視していく。
- ⑥ 国や都、地方自治体による保育施策に応じ、法人との連携を図り、保育所における職員の処遇改善に努め、優良な保育者の人材確保に努める。
- ⑦ 法人・各事業所との組織的な連携の基、保育所運営に携わる全ての保育者が、児童福祉施設の職員として基本的人権の尊重を根底に捉えた資質の向上が図られるよう努める。

保育における目標は『子どもが自発性を発揮し、友達や保育者と意欲的に交流を深める中で築かれる信頼関係と、経験に裏付けられた大きな学びと育ちを大切に、その人なりの幸せを考える』という受容的交流理論の基本的な考えに基づいた保育を行う。

『主体的に行動する子ども』『逞しく自分の力を働かせる子ども』『人を思いやる豊かな心を持つ子ども』を育てることを目標とする。

2. 月間・年間予定

別紙のとおり

3. 職員体制

組織図を添付

4. 職員研修

保育者としての生活能力、態度や対人対応能力を高めること、また、養護と保育の一体化を目指すための保育技術と専門性を養うこと、その両面を重視していくことを職員研修の目標とし、個別研修計画を作成し計画的に行なう。

5. その他（建物改修、設備、備品等購入）

すこやか園本園の建物や設備の老朽化部分の修繕や改修、また、宇奈根なごやか園、木造建物腐食部分や経年劣化が著しく進んでいる部分の修繕を進める。保育における備品（玩具・本・その他）の補充等も計画的に行う。